

お知らせします!

主要河川実態調査結果

町では毎年、河川の水質調査を実施しています。

この調査は、身近な河川の水質状況を知っていただくとともに、今後の生活排水処理対策事業に反映させることを目的に毎年行っているものです。平成22年度の水質状況がまとまりましたのでお知らせします。

実態調査結果（採取日：平成23年1月6日）

河川名	採水場所	*BOD濃度(mg/l)		水質状況	
		15年度	22年度	15年度	22年度
荒谷川	荒川合流前	0.8	1.2	きれい	きれい
坂東沢川	荒川合流前	0.7	0.6	きれい	きれい
土井の沢川	荒川合流前	0.5未満	1.2	きれい	きれい
三品川	萩和田橋付近	1.6	1.2	きれい	きれい
平倉川	三品川合流前	0.5未満	0.5未満	きれい	きれい
山居川	山居橋付近	1.8	3.8	きれい	ややきたない
栃谷川	地藏橋付近	0.6	0.5	きれい	きれい
五ノ坪川	柿平橋付近	0.7	0.6	きれい	きれい
深沢川	荒川合流前	0.6	0.7	きれい	きれい
長久院川	荒川合流前	1.4	4.0	きれい	ややきたない

※BOD：水質の汚濁状況を示す代表的な指数です。この値は水中の有機物が微生物によって分解される時に消費される酸素の量を示し、数値が大きくなるほど汚濁していることを表します。

お知らせします!

ダイオキシン類実態調査結果



町では毎年、一般環境中（大気）のダイオキシン類の現状を把握することを目的に、平成11年度から調査を行っています。平成22年度の調査は川南地区の4地点で実施し、その結果がまとまりましたのでお知らせします。

実態調査結果（調査日：平成23年1月5日～12日）単位：(pg-TEQ/m)

調査地点	カタクリ 体育センター	五ノ坪集落 農業センター	鉢形小学校	寄居町消防団 第5分団詰所車庫
各地点濃度	0.016	0.015	0.018	0.023
(参考)H20年度	0.034	0.04	0.046	0.057(男衾小付近)
環境基準値	0.6			

※pg：ピコグラム（Picogram：1兆分の1グラム）

※TEQ：毒性等量（毒性の違うダイオキシン類を、最強の毒性を有するダイオキシン(2,3,7,8-トラクロロジベンゾ-p-パラジオキシン)の量に換算した量として表していることを示す記号）

ダイオキシンを減らすために

町内で発生したダイオキシンのうちの多くは、私たちの家庭から出たごみや産業廃棄物の焼却によるものです。基準に合わない焼却炉や野焼きなどによる焼却は規制対象となり、焼却をすることはできません。

庭先などでごみの焼却をしている人は、常にダイオキシンを発生させ、多くの人の健康に害をおよぼしていますので直ちに焼却をやめてください。

家庭のごみは分別し、決められた日に決められたごみ集積所へ出してください。また事業所のごみはごみ集積所には出せませんので、町や県から許可を受けている廃棄物の収集運搬業者へ処理を委託し、適正なごみの処理をお願いします。

問い合わせ／生活環境課（☎581・2121内線223）へ。

交通事故防止に皆さんのご協力をお願いします!

～交通事故に遭わないために～

今年寄居町では、9月30日までに4人の方が交通事故で亡くなっています。今後さらに、悲惨な交通死亡事故が発生しないよう、町では交通事故防止特別対策を実施していますが、皆さんのご協力が必要です。

埼玉県内の状況

埼玉県内では9月30日現在、149人の方が交通事故で亡くなっています。昨年と比較すると8人増加しており、全国的にも東京都、大阪府、愛知県に続いてワースト4位となっています。主な原因は、速度超過、一時不停止、脇見運転、ハンドル誤操作といった、運転者のちょっとした油断や慣れという気の緩みから発生しています。運転者は「絶対にやってはいけないこと」と承知していると思いますが、重大な事故につながるとは考えていないのでしょうか。

寄居町内の状況

寄居警察署の調べによると、9月30日現在で人身事故が112件発生しています。主な事故原因は、脇見運転や速度超過によるものが多く、死亡事故に進展しそうな事故も数件含まれているとのことです。歩行者は事故に巻き込まれないよう、自ら安全確認や反射材などを身に付け、事故防止を図りましょう。

反射材用品を身に付けましょう

夜間や雨の日は、自分自身の存在を相手（運転者）に見せることが大切です。

できるだけ黒っぽい服装を避け、目立つ明るい色（白・黄）の服装を心がけ、反射材用品を活用しましょう。

反射材は、自ら光を出しませんが、当てられた光を光源に向かって反射させます。暗い夜道でも反射材用品をつけていると、相手からよく見え、交通事故防止に効果的です。



交通事故を防止するための注意点を確認しましょう。

《こんな危険、おかしていませんか?》

●歩行者編

「面倒だから……」と、横断歩道以外を横断

運転者の目は、横断歩道上に向きがちで、その少し手前や先までは、なかなか注意がおよびません。近くに横断歩道があるときは、必ず横断歩道をわたります。

「車がないからと……」と、信号無視

いないと思っていた車が路地から出てきたり、遠くの車がハイスピードで近づいていたりするかもしれませんので、信号無視は絶対禁物です。黄色や青の点滅信号でも無理に横断せず、次の青信号まで待ってから横断しましょう。

「車は行った……」と、通り過ぎた車の直後を横断

車が通り過ぎても、反対車線から近づいてくる車を見落とす場合があります。信号や横断歩道のない場所では、道路の左右がよく見渡せる場所を選んで渡りましょう。

「渡り切れるだろう……」と、無理に横断

車との距離や車の接近速度は判断しにくいものです。また「車の方で気付くだろう」と思っても、運転者はこちらを見ていないかも知れません。渡れるか渡れないか迷ったときは横断をしないこと。特に夜は、車が完全に途切れてから横断しましょう。

●自転車編

「うっかり、ぼんやり……」一時停止せず

前かがみの姿勢では、標識を見落とす危険があります。特に、一時停止を怠るのは、大変危険です。標識をよく見て「一時停止」では必ず止まって安全を確認しましょう。

「ちょっと失礼……」と、急に進路変更

急に進路を変えたり、歩道から不意に車道へ出たりすると、うしろから来る車は避け切れません。進路を変えるときは、必ず後方や周囲の安全を確かめてからにしましょう。

●自動車編

「大丈夫……」と、慣れで漫然と運転

長年運転をしていると、通り慣れた道ほど油断が生じ、安全をよく確かめないで通行する危険な習慣がつきやすいものです。通り慣れた道ほど油断せず、安全をしっかり確かめる習慣をつけましょう。

「見えないから……」と、停止線をオーバー

狭い道に面した交差点では、停止線がかなり手前にあるところがあります。これは、大型車が曲がるのに普通車の倍程度の内輪差ができるため、大きなスペースが必要となるからです。もし停止線をオーバーして止まったときに大型車が曲がってきた場合、停止線をオーバーした車はバックしなければなりません。普段から停止線の手前で止まるように心がけましょう。

問い合わせ／生活環境課（☎581・2121内線221）へ。